

C-6 ローリングカラーに関する研究(第2報) - 肩傾斜角と衿先きの開き、  
衿腰の高さ - 東京学芸大 石毛フミ子 ○森谷多恵子

〔目的〕

前実験では、ローリングカラーの製図別、材質別の衿先きの開き寸法、衿腰の高さを明らかにした。今回は同製図、同材質のものでも、身頃の肩傾斜角の相違によって衿先きの開き寸法、衿腰の高さは変化すると考え、いぼり肩、スタンダード、なで肩における衿を製作、測定し、考察した。

〔方法〕

身頃は前実験と同寸法とし、肩傾斜角は $21^{\circ}$ 、 $28^{\circ}$ 、 $16^{\circ}$ の3種類。衿は直線裁ち、肩合わせによる製図の2種。くり寸法、重ね寸法はそれぞれ、0、3、7、11 cmの4種とし、各2枚づつ、合計48枚を製作した。材質はブロードを使用。測定は前記3種のボディに着用させ、衿先きの開き、後中心における衿腰、右肩における衿腰を1枚につき3回づつランダムに測定し、計6回の平均値をとった。

〔結果〕

2種の製図法では共に肩傾斜角による差があらわれ、特に衿腰においては、その差が大きくあらわれた。直線裁ち方法においては、傾斜角の大きいものほど、衿先きの開きは少なく、衿腰は低くなり、肩合わせ方法では、傾斜角の大きいものほど、衿先きの開きは大きく、衿腰は高くなった。なお、重ね寸法、くり寸法と衿先きの開き、衿腰の高さの変化などは前実験と同様の関係が認められた。